

弾圧への厳重な警戒と 断固とした反撃を!

日本赤軍・重信房子さんの逮捕に当たって

去る一月八日、日本赤軍の重信房子さんが大阪府高槻市で逮捕された。折しも本紙では重信さんの中東レポートを連載中であつたため、逮捕直後からマスコミの取材が殺到、読者の方々からも問い合わせ、心配や激励の声が寄せられた。それに応える意味も含めて、今回の事態についての経過、本紙の基本的立場、見解を明らかにしておきたい。

まず、本紙が重信さんのレポートを掲載するようにになったのは、本紙一〇〇七号（一九九九年四月二十五日号）五面「拝啓 日本赤軍・重信房子様」で、中東レポートの寄稿を呼びかけたのがきっかけである。それに応えて重信さんから一九九九年九月五日付けの第一報が届き、以降、今年一〇月二十五日号（一〇五八号）まで九回のレポートを掲載してきた。本紙が寄稿を呼びかけたのは、「グローバリズム」の現状の下で「世界各地の闘い、現状のありようと課題を明確にしたい」との趣旨に基づくもの

日本赤軍の原点



団結をめざし、団結を求め、 団結を武器としよう！

5.30リッダ闘争5周年によせて(1977.5.30)

日本赤軍派の誕生日ともいえる五月三〇日を迎え、更なる不屈の革命任務を担う決意を込めて、日本人民、同志友人に日本赤軍に結集した全ての戦士の名において、心から連帯のあいさつを送ります。

私たちが、日本人民を代表して、アラブ・パレスチナ人民と手を握り合って六年目、リッダ闘争から五年目の五月三〇日を迎えるよとしています。

その間、私たちは少なくない革革命の教訓を一つづつ導き出そうとしてきました。私たちには失敗を数えきれないほど克服する闘いの中から、自らを革命化することを通して、不滅の生命力を養うことを学んできました。

今、私たちは日本革命を勝利完成する闘いの中

にささやかな教訓を返し、一つの階級の責務を共に担い続

けることを約束します。

日本革命をめざす者が、日

本国人民、同志友人と共に日本

革命を勝利完成する闘いの中

にささやかな教訓を返し、一

つ一つ得る度に、その中か

ら勝利の確信を一つ一つうち

かためてきました。そして今

もまた、その途上にあります。

公となり、自らの力で未来を

切り拓く正義の闘いは、いか

なる困難に直面しようとも必

ず勝利するという確信は、闘

いよいよ現実化してきました。

しかし、私たち日本赤軍は、

自分たちだけが苦労して革命を担っていると

いうような悲壮な観点に寄つ

て立っていたといえます。私

たちは、数えきれない教訓を

批判を、まず自らの不十分

性の結果として受け止めてい

きたいと思います。そして、自

己を更に批判的に改進すると

性の結果として受け止めてい

きたいと思います。そして、自

をこそ共有していくことが、もつとも大切なことだと実感しています。そして日本革命を志し、結果としてその不十分さから敗北した個々の闘いもまた、私たち自身の敗北として、階級の一つの責任を共にして、共に克服することの中に、真剣な団結へのきざしがあると確信しています。自らの立場に固執するのではなく、主観的なつもりがひきおこした客観的現実を直視し、客観的な革命の真理、革命の是非の前に自らの「確信」を解体することを革命任務の基本とすることが問われていると私はちは考えます。そのことを通してより主体の認識能力を改造する革命実践の中で、一つの階級的団結、一つの党性を組織し合いつことができると、実感しています。日本赤軍は国内の人民・同志・友人と団結し、革命の利益の一点にようつて結ばれる階級的団結を求めるところから、自らの自己批判を課していくことします。それこそ、革命の喜びと希望の任務として自らが実践することに他なりません。

日本革命の中で主観的には精一杯闘いながら敗北した個団結へのよびかけとして、私たちは一九七五年クアラルンプール米・スウェーデン大使館制圧同志奪還闘争を担いました。そして同志奪還闘争の軍事的闘いの勝利は、団結を不滅に実現する第一歩をしっかりと実現しました。かつての闘いの自己批判実践として、

い握手の熱いぬくもりは、今、日本赤軍の命脈となつて、この間の闘いを打ち固めています。日本赤軍が奪還した意味は、そして、奪還に応じた戦士たちの意志は、本当に日本革命を勝利完成させる階級の中核を組織し合つことにあります。勝利の幻想によつてではなく、敗北や、人民・同志・友人にもたらした害毒まで教訓とし合い、共に克服することを通して、人民・同志・友人と団結することができると確信するからです。私たちの現在が不十分であれば、いつまでもも人は過去を忘れたりしないし、問いつづけることを知っています。そして反対に、どんなに過去が不十分でも、現在とこれからの一時一時の革命に対する誠実さは必ず人民と深く団結できると確信しています。

アラルン・ブルーム・スウェーデン大使館制圧―同志奪還闘争を経た私たちの実践によつて、今、証されています。日本赤軍という名称や、○○派という党籍によつてではなく、人民に服務する革命の中核部隊として、革命と人民の利益の前に自分の立場を解体し、普遍的な立場により高め團結する中から、真に日本革命を導く党的な力が、人民を主力として育成されてくるのだと考えておきます。

本赤軍は、人民内
半革命化し合うこう
思想闘争と名づ
に団結する主体
この間続けてきま
に私たちには、思想
に、あらゆる分野
人々と思想的団
りながら、各々の
補い合い、資本主
わる新しい社会
在から展望する
て、一歩一歩、人
へと団結し合うで
した闘いは、更に
武装闘争実践を、
の表現として、持
的な国際、国内遊
展開せしめるで
し、共に克服し、共
合つて、人民が主
社会を建設し抜く
確認します。